

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200337		
法人名	流通商社会株式会社		
事業所名	グループホーム ゆうゆう北沢 A棟		
所在地	〒028-3323 岩手県紫波郡紫波町北沢字北沢2-1		
自己評価作成日	令和4年10月24日	評価結果市町村受理日	令和5年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・本来のグループホームとしての役割を再確認しながら、日々の関わり方や、利用者さんの生活のお手伝いのやり方を見直している。「利用者さん主体」であることを本質的に考え実践をしているが、まだまだ取り組みを初めて日が浅く、至らない部分も多い。そういった中でも、職員それぞれ課題を持ち、現状よりも利用者さんの生活に根付いた質の良いサービスを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、紫波町の北東部、盛岡市に隣接する閑静な田園地区にあり、開設20年の歴史のある事業所である。運営法人は当事業所の他、2カ所(盛岡市)のグループホームを運営しており、「グループホームは利用者の家」を基本的考え方とし、職員は、法人の「理念」「介護支援方針」により、利用者の生活をお手伝いをするとの考えを基本にしている。家族の面会時には「ご訪問記録」に、利用者の様子や職員の態度についてのアンケートを提出いただき、利用者や家族の思いの把握の一助にして支援に役立てている。職員は、系列の事業所での体験実習や理念、支援方針の勉強会等でスキルアップに取り組み、質の高い支援を目指して研鑽を積んでいる。事業所は、町の認知症相談所や移動図書館の配置場所になっており、地域に開放された事業所となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和4年12月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の介護部としての理念、指針を共有、再確認する為に勉強会を行い、実際の場面での支援に結び付けられるよう取り組んでいる。まだまだ発展途上。事業所の理念に関しては、介護部の理念、指針の理解が深まった時点で職員と話し合い新たに作成しようと考えている。	介護に対する意識の変化等に対応する事業所理念とするため、現在見直しを進めている。利用者の尊厳やグループホームの役割等について、勉強会を開催し、理念や指針を職員と話し合い、支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前に比べ機会は減っているが、感染状況を見ながら出来る限り地域の草刈りに参加したり、ボランティアの受け入れを行っている。	コロナ禍以前は地域の婦人会が月1回ボランティアで来訪していたが、現在は、事業所敷地の草刈り(春～秋随時)に来ていただき、管理者は、自治会の全体会議や草刈りに参加している。事業所は町の移動の図書館の配置場所や認知症の相談所にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は町の高齢者安心ネットワーク推進協議会委員として町の認知症なんでも相談会に定期的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居状況、活動報告、事故報告を行っている。コロナ禍で書面会議として対応させて頂く事もあったが、頂いたご意見には一つ一つに回答し、理解していただきながら全体のサービス向上に努めている。	コロナの感染動向を勘案しながら、今年度は近所の公民館で3回、書面で1回開催している。家族(2～3名)、民生委員、介護相談員、町担当課職員が委員となっている。委員からの広報誌発行、看取りやヒヤリハット対応等についての意見に、一つ一つに丁寧に回答し理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町役場保護課の担当者に出席していただき事業所の実情を伝えている。また、役場に行く機会もあり、その際にも相談等している。	運営推進会議に町から職員が出席しており、事業所の状況についての理解を得ている。生活保護受給者については、県振興局から年2、3回連絡がある。管理者は、町の介護相談員(月1回)の来訪時や担当課に出向いた際など、様々な機会をとらえて情報共有している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束及び行動制限廃止委員会を設置し、事業所内で不適切な関わり合いや行為がないか確認している。また、勉強会の機会を設け、職員に働きかけている。玄関の施錠はしていない。	「身体拘束及び行動制限廃止委員会」は、管理者・リーダー・各棟から1名の4人で年4回開催し、研修会も年2回実施している。委員会では、ヒヤリハットについて、原因の確認と適切な対応、実践の経過が検討されている。その内容は、運営推進会議にも報告している。研修会は毎回テーマを決め、今年度は、「不適切な関わり」「行動制限」について、具体的な内容で研修している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び行動制限廃止委員会での話し合いや、勉強会の機会を設け、例題や実際の場面での出来事等を基に職員で考え理解できるように働きかけている。年度内に外部研修に参加する予定もある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したことのある職員や、以前行った内部研修に参加した職員の中には理解している者もいるが、事業所全体として学ぶ機会を作れていない事もあり、まだまだ理解が足りない。外部権利擁護研修に参加する予定がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約内容、事業所としての考え方を説明し、納得いただいたうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な会話や、月に一回、町の介護相談員が訪問した際に入居者から意見や苦情、要望を聞く機会を設けている。家族に関しては、面会時のアンケートを記入していただいたり、運営推進会議に参加して頂き、ご意見や苦情を頂戴している。	利用者からは、日々の会話や表情・行動等から要望等を把握している。家族からは、推進会議や面会時に要望等を聞いている。コロナ禍で、家族等の面会は予約とし、時間を15分程にしているが、利用者個々の面会記録簿を備えており、「ご訪問記録」として事業所への要望を記載してもらっている。要望には、必要時対応している。町の介護相談員が月1回来所し、利用者から意見や要望を聞いている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や個人面談、日常的な会話の中で意見交換を行っている。	職員からは、職員会議や日常の会話で意見や提案を聞いている。管理者は、職員が事前に記入した「流通商事介護部サービス基準確認表」を基に3ヵ月ごとに職員と面談し、個々の目標の達成に向け、指導助言する場としており、意見・提案を聞く機会ともなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外労働は基本的には適正に行われているが、状況によって(入居者の容体の変化や、職員の急な休み、コロナの影響等)は時間外労働を行う機会も多く、今後の課題としている。また、職員がやりがい、向上心を持って働けるよう、管理者は考え方の部分を中心にマネジメントを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修、法人内での交換研修を積極的に行った。管理者からも面談時や実際の場で、個人個人にアドバイス等をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した職員は、その際に情報交換をする事もあるが、それ以外は新規入居者の事前訪問時に話す程度で、同業者との交流はほとんどなかった。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の入居者様に対しては、ある程度心を開いていただく事から始め、日常会話の中から思いや要望を引き出し、計画作成を中心にアセスメントを行い、ご本人の安心した生活、サービス向上に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査、申し込み、契約時にに要望や不安を伺い、それに対ししっかりと説明を行い安心してサービスを受けて頂けるよう良好な関係づくりに努めている。また、面会時の会話やアンケート、毎月の連絡文書を通じ意見交換を行っている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族から状況を伺いながら他のサービスの利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意向をお伺いしながら接している。自立支援の観点から出来るだけご自身で出来る事は行って頂き、出来ない部分に関してのみお手伝いするようにしている。まだ先回って不必要なお手伝いをしてしまう場面もみられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で難しい事も多かったが、出来る限りご本人との関係が途切れぬよう働きかけや調整を行っている。また、面会時や連絡文書を通じてご本人の生活状況や健康状態を伝えたり、意見や情報の交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れぬよう、支援に努めている	コロナの感染状況を見極めながら家族や馴染みの方と面会したり、馴染みの場所に出勤して頂いている。	コロナ禍で、家族等との面会が制限されており、利用者の普段の生活や行事の様子を掲載した広報誌「ゆうゆうだより」を家族に送付し、関係継続の支援としている。利用者が若いころ働いていたパン屋のパンを職員が買ってきて思い出してもらったり、懐かしい場所にドライブしたりしている。訪問看護師や訪問理容師が新たな馴染みの人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニティや関係性を見ながら、孤立していたり、関わりが必要な方がいれば声を掛け関わらせて頂いている。元々他の入居者との関わりを必要としない方もいる為、そういった方は職員との関わりを主とし支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了すると関係性が閉ざされてしまう事が殆どだが、現在の状況をお知らせしていたく事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話や、普段の様子、表情等を見ながら、その人の思いを汲み取っている。	利用者の思いや意向は、日々の生活での会話や表情(納得していないな、嫌なんだろうな等)、動作から把握し、「私の願い」の5項目、私の在り方(〇〇が好き)、安心(家族)、力の発揮(〇〇をしたい)、安全・健やか(体調)、暮らしの継続(好きなこと)に分類し、「生活記録」に記入している。記録は、職員全員で共有し、介護計画とも連動している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前情報を頂いたり、ご本人や家族からお話を伺う等し、情報を集めるよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で変化や何かしらの発見があれば、個人ケースや日誌に記入したり、申し送り時やカンファレンスの場を利用し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日常生活での言動や意向を大切にしながら、家族や本人の希望を伺い、実際の状況と照らし合わせ介護計画を作成している。	入居時に、介護支援専門員が本人・家族と面談し暫定プランを作成・試行を経て、カンファレンスの実施、本計画の作成、ケアの実践、モニタリング、計画見直しの流れの中で、3か月毎に見直しをしている。利用者の意向を「私の願い」の5項目に分類し、次の期間の目標に掲げ、家族の同意を得て成案としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の暮らしの様子や話されたこと、介護計画の実践状況等を個人ケースや日誌に記入し、申し送りで情報の共有、確認を行っている。また、それらは介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人の状態、状況に合わせ必要と考えられる支援を検討、見直しながら取り組んでいる。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの状況もあり、まだまだ地域資源に関しては十分に活用できていないのが現状。状況を見ながらではあったが、散歩のついでに近所の商店で買い物をすることはできた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医からは適切な医療を受けている。	利用者の大半が入居前のかかりつけ医を継続して受診し、3名の利用者は訪問診療医を利用している。訪問看護ステーションから、週1回看護師が来所し、健康観察、健康相談を行なっている。かかりつけ医受診は家族又は職員が同行している。歯科医には、不定期ではあるが検診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションから週に一度、定期訪問を受けている。相談、助言もいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者の支援に関する情報を医療機関に伝えている。また、退院直前から情報交換を行い利用者が安全に暮らせるよう務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される方は、早めに家族の意向を確認し、段階が進むにあたりさらに話し合いを重ねている。	重度化への対応は、家族の意向を早めに確認しながら対応している。かかりつけ医との協力体制ができており、開設当初から看取りを実施している。ほとんどの職員が看取りを体験しており、看取り後はカンファレンスを実施し、職員の精神的支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の訓練を毎年行っているが今年はまだ行っていない。		

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災訓練を実施している。今年度は1回行っている。	町のハザードマップ上では浸水指定地区の対象となっていない。火災避難訓練は年2回実施し、1回は消防署立会で行い、これまでは台所からの出火を想定していたが、今回は、利用者の居室コンセントの漏電による火災発生を想定して実施し、両棟別々の場所への避難を行なった。今後、車椅子での避難経路の確保等、マニュアルの再検討を予定している。	利用者居室からの出火想定と、訓練を工夫されています。今後、夜間想定だけではなく、実際暗さの中での車椅子での避難、夜勤職員の動きの確認、職員の参集訓練など、訓練内容を具体的なものとする工夫を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声掛けに関しては、入居者の尊厳を損なうことないよう意識して行うよう、管理者からも指導し取り組んでいる。まだまだ配慮が足りなかったり、不適切な場面も見られるが、都度注意し、どのような声掛けをすれば良かったか職員に伝えている。	法人の介護部理念「利用者さんの尊厳を大切にしよう」を意識し、支援にあたっている。時に不適切な対応も見られるが、管理者はその都度注意し、研修などを通じ職員の育成に取り組み、意識の向上が図られてきている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身で決定できるよう、声の掛け方を工夫したり、選択しやすい環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	以前に比べ、職員の都合や業務を優先する事はほとんどなく、一人ひとりご自身のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみは入居者の希望に合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前に比べ、入居者と職員と一緒に調理を行ったり、片付けを行う事が増えている。もっと入居者主体で行える事を目指している。	献立は職員が作成し、朝食・昼食は職員が調理している。利用者は、食材の下ごしらえ、配膳、食器洗いなど、できることを和気あいあいと行っている。コロナ禍以降外食は控えているが、ティータイムや屋外での団子、ドライブでの大判焼きなどでおやつを楽しんでいる。夕食はシルバー人材センターから派遣の方が調理している。今後、夕食も職員と利用者が一緒に調理したいと考えている。	

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	声掛けをしながら、なるべく好きな物を飲んでいただいている。摂取量が少なめの方もいるが、ご本人の意思を尊重している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声を掛けさせていただき、個人の能力に応じて見守りやお手伝いをしている。無理強いはいしない。必要があれば訪問歯科の診療に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易なオムツ着用は行わず、トイレにお誘いしていただいている。	利用者個々の機能の現状維持を最優先にし、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。状態の変化時は、申し送り等で適切な排泄用品の使用の検討をしている。夜間の離床センサーを、5名が使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的に日常生活の動きの中で声掛けをしながら動く機会を増やしている。オリゴ糖入りのヨーグルトを飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員の都合や現在の利用者さんの状態を考慮し、時間帯に関しては午前中に入って頂く事が多いが、希望があれば夜に入って頂くなど柔軟に対応している。	各棟とも、浴室を毎日準備している。入浴時間は、A棟は午前、B棟は午後としているが、希望により夜の入浴にも対応している。入りたがらない傾向にある利用者には、声掛けをし翌日に回すなど、週2、3回の入浴を確保している。同性介助に配慮している。菖蒲湯、柚子湯を実施し、季節を感じる事が出来るようにしている。入浴介助時は、利用者と職員がゆっくり会話できる機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子を見ながら声を掛けさせていただいている。休む際には室温や明るさに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報に関しては職員間で確認、共有し、副作用や、その後の経過について様子を見ている。また、服薬が終わるまで見守り、確認している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でご自身で行える事は行っていただいている。有している力をもっと発揮出来るような支援を行えるよう、職員側もまだまだ試行錯誤している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあった為回数は多くなかったが、ドライブに出掛けたり、近所を散歩する機会を持てた。	コロナ禍に加え、加齢とともに、外出の機会が減ってきているが、玄関先での日光浴や近くの神社や商店までの散歩・買物、花見(城山公園)などのドライブを実施し、外出の機会を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や通帳を所持している入居者も数人いるが、あまり使う機会がなかったり、買い物が必要な時は職員に代行を希望される方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由に出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や日光の明るさ、テレビの音量、室温等に配慮している。	両棟の中央にあるそれぞれの厨房を中心に、廊下、食堂、浴室、トイレ等が対称的に配置されている。共用の空間は、床暖房、エアコン、空気清浄機で、快適な生活環境が整備されている。利用者が自由に行き来できる構造となっており、食堂では、日課のテレビ体操に、隣の棟のテレビ体操が好きな利用者を誘い一緒に体操したり、食卓を利用しての「女の卓球対決」を楽しんでいる。町の移動図書館が定期的に訪問しており、利用者は借りて読んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名の入居者は自室以外の居場所があり、思い思いに過ごしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居者の状態にもよるが、出来るだけ使い慣れた馴染みの物をお持ちいただくよう提案し、居心地よく暮らせるよう努めている。	各居室には、クローゼット、ベッド、エアコンが設置され、各棟の両端はトイレ付きとなっている。居室には、テレビ、家族写真、仏壇等を飾っている。携帯電話を持参している利用者は、居室で家族と通話している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお部屋が分かりやすいよう張り紙を貼ったり、ご自身で使用する物に名前を表記している。		